

熊野町近代教育に関する若干の覚え書

藤井 千之助

熊野町における明治以降の近代教育については、既に、熊野第一小学校『熊野川 創立百周年記念誌』が、昭和五十年十月一日発行され、編集委員の努力がこれに結晶している。

同書には、六三頁から七三頁にかけて熊野町史（年代表）も掲載されており、昭和四十九年までの熊野町の歴史の流れの概要が把握できるようになっている。

しかし、近代教育といっても、第一小学校の創立百周年記念誌であるから、主として、初等教育にその内容が傾斜しているのは、当然のことといわざるを得ない。

そこで、主として中等教育について、共同研究者としての柴原健児氏が入手した資料を中心に若干の覚え書を記し、疑問点も挙げてみたい。

熊野町の方々で、さらに詳細かつ正確な資料を御提供いただければ幸いと思ったからである。

△その一▽（旧制）熊野中学校について

熊野町に（旧制）中学校があったということは当初予想されていなかった。（旧制）中学校があったことをはじめて聞いて驚いたが、その詳細はきわめて漠然としている。柴原氏が、志々田次郎・中井啓文・中井盛人の諸

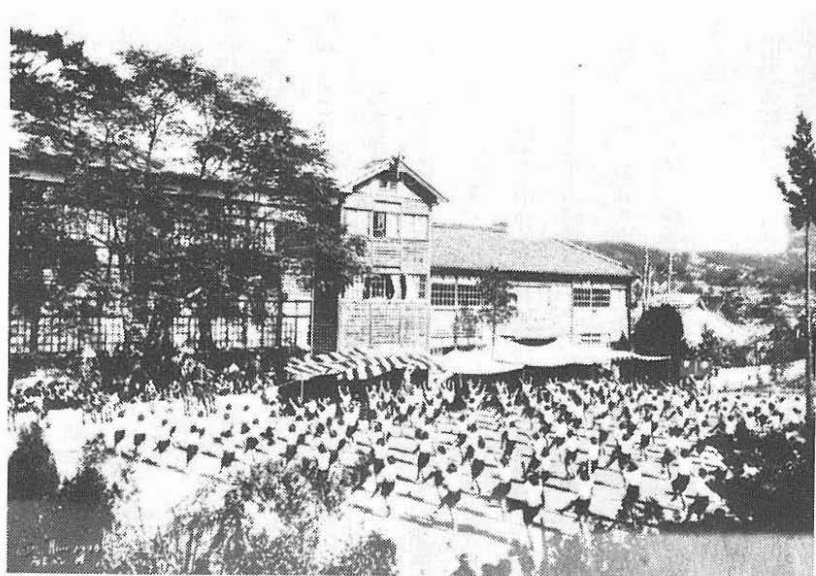
氏から聴取した聞き書きのメモで、その概要を述べる。

文部省の認可がなかったので正式の中学校というべきものではなかったようであるが、(旧制)熊野中学校は、大正十五年四月に創設され、昭和三年三月に廃止された。(志々田氏は、大正十四年四月創立、昭和五年三月廃止と言われている。)学長(校長)は阿原臣^{あはら}で、同氏は大正六年一月から昭和四年三月まで、および昭和六年十月から同十年十月まで町長であった。さらに、佐々木三郎次、志々田次太郎(当時区長)らが世話人となり、教師は二名であった。そのうち一人は、青井泉で、数学・英語・理科を担当し、油絵・短歌もよくした才人であり、他の一人は、鈴木哲朗で国語・漢文を担当した。国語・漢文は、のちに古谷田香流^{かふる}が担当した。(なお古谷田は、のちに熊野跡の郵便局長になった。)

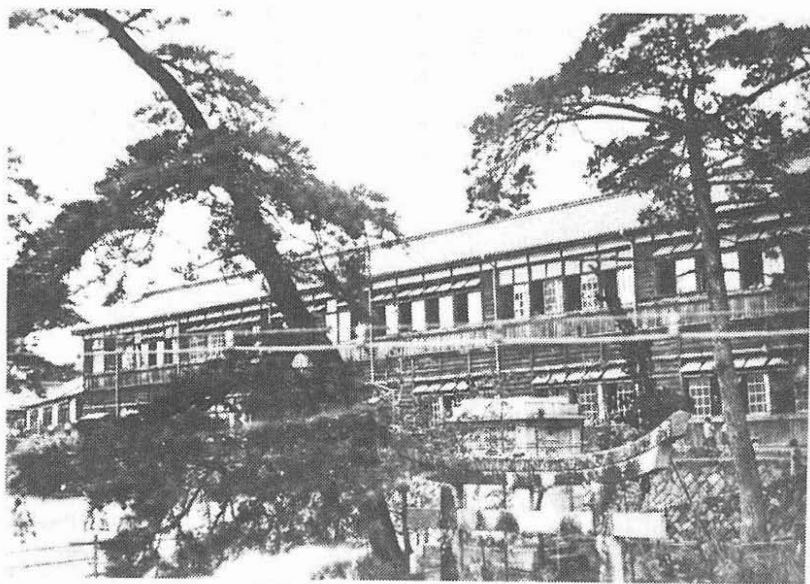
校舎としては、萩原分教場の東側で、現在の農協購買部の倉庫になっているところを使用した。

生徒は、みんなで野球もしていたといわれるから十八名位か。しかし、はっきりした人数は判らない。当時の生徒、中井啓文・中井盛人両氏の場合を事例に挙げると、大正十四年四月から一年間は、熊野小学校高等科一年に通学、大正十五年(昭和元年)四月に、新設の熊野中学校三年生となり、翌年は同校の四年生となったが、昭和三年四月には、呉市の興文中学校の四年生に編入、昭和四年四月から昭和五年三月には、興文中学校の五年生であったといわれる。中井啓文氏は呉市に下宿して興文中学校に通ったが、志々田次郎・中井盛人の両氏は自宅から通学したという。

旧制の熊野中学校が、きわめて短期間、変則的ではあるが存在したことは事実のようである。しかし、詳細は不明確で、さらに調査の必要性を痛感する。



婦徳高等女学校



昭和初期 熊野第1尋常高等小学校

△その二▽ 婦徳高等女学校について

婦徳高等女学校は、浄土真宗本願寺派西光寺の住職猪野恵亮と同副住職猪野了俊の父子の発願によって創立された。大正十五年四月、婦徳実科女学校として設立され、翌昭和二年に、婦徳高等女学校と改称されたらしい。

さきに挙げた『熊野川』所収の熊野町史（年代表）には、「大正十四年四月、婦徳高等女学校創設」と記載されているが、これは不正確と推定される。さて、創設者の猪野恵亮は、青年会、処女会、壮年会を設け、専ら教育事業に腐心したが、青年会の青年訓練所が設立されたため、同氏は女子教育に意を用い、実科女学校を設立し、翌年、婦徳高等女学校と改称した。「当校は、高等女学校令に依り、女子に須要な高等普通教育を施し、兼ねて温良貞淑なる婦徳を涵養することをもって目的とし、しかも宗教的信念を基礎として、国民教育の理想を貫徹せんことを期した。そのために一ヶ月に一週間を信仰週間とし、特に生徒に対し、信仰に関する課目を課し、常に女子教育を宗教と関連しつつ教育をすすめた。昭和初期、学校の経費は、西光寺医院の所得を当て、また西光寺の私有財産からの利得を以てし、僅かに町からの補助金を併せ用いた。」といわれる。（以上は、主として、自治調査会『広島県誌』昭和七年七月発行に拠る）

婦徳高等女学校は、安芸郡熊野町を中心に、呉市及び隣接町村の女子教育に貢献し、卒業生約一、〇〇〇名を世に送った。昭和二十二年新学制により、聖徳中・高等学校となり、財団法人猪野学園立を学校法人猪野学園立とした。しかし、昭和二十九年には、聖徳中・高等学校は共に廃止され、猪野学園は専ら幼稚園経営を進めることになった。

婦徳高等女学校の卒業生の方に、この学校に関するさらに詳細な体験談などをお聴きしたいものである。

△その三▽ 全国書道展覧会について

前掲の『熊野川 創立百周年記念誌』には、「全国書画展覧会の記録」が二一〇頁から二二三頁にわたって記載されている。この「足跡の記録」によれば、昭和六年十二月五日、第一回全国書き方展覧会が、会期三日間で発足し、昭和九年十二月一日、第四回全国書道展覧会に、名称を従前の全国書き方展覧会から全国書道展覧会と改称したとなっている。

しかし、筆者が小学校第四学年であつた昭和七年十二月五日付で、小学部で受けた褒状には、「本校主催第貳回全国書道展覧会ニ於テ審査ノ結果成績優良ナリ依テ之ヲ賞ス」となっている。審査員としては、広島縣広島師範學校教諭鎌田喜正、広島縣三原女子師範學校教諭大窪富貴雄、中国書道會長小川早苗、広島縣立広島高等女學校教諭林原文子の四氏の名前が載っており、「足跡の記録」の第一回全国書き方展覧会の審査員と同一である。

「全国書画展覧会の記録」の「足跡の記録」に、前述したように昭和九年十二月一日の第四回から、「名称を全国書道展覧会と改称」とあるのは、如何なる根拠によるものか疑問である。筆者の受賞した褒状には「第貳回全国書道展覧会」と明記してあるからである。

第二回から全国書道展覧会と改称されたといった方が正確ではなからうか。